

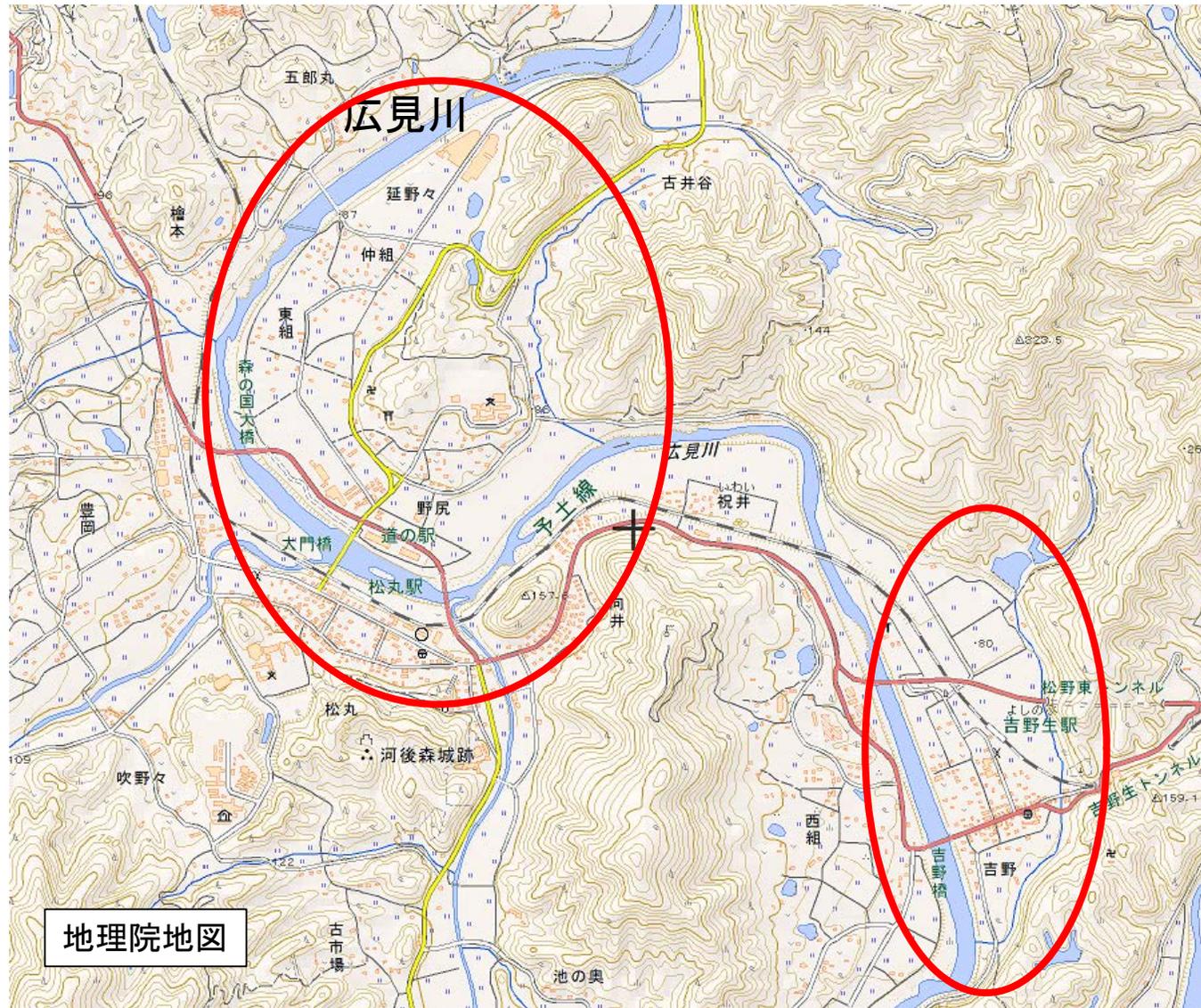
# 平成30年7月豪雨 愛媛大学災害調査団

## 浸水痕跡調査

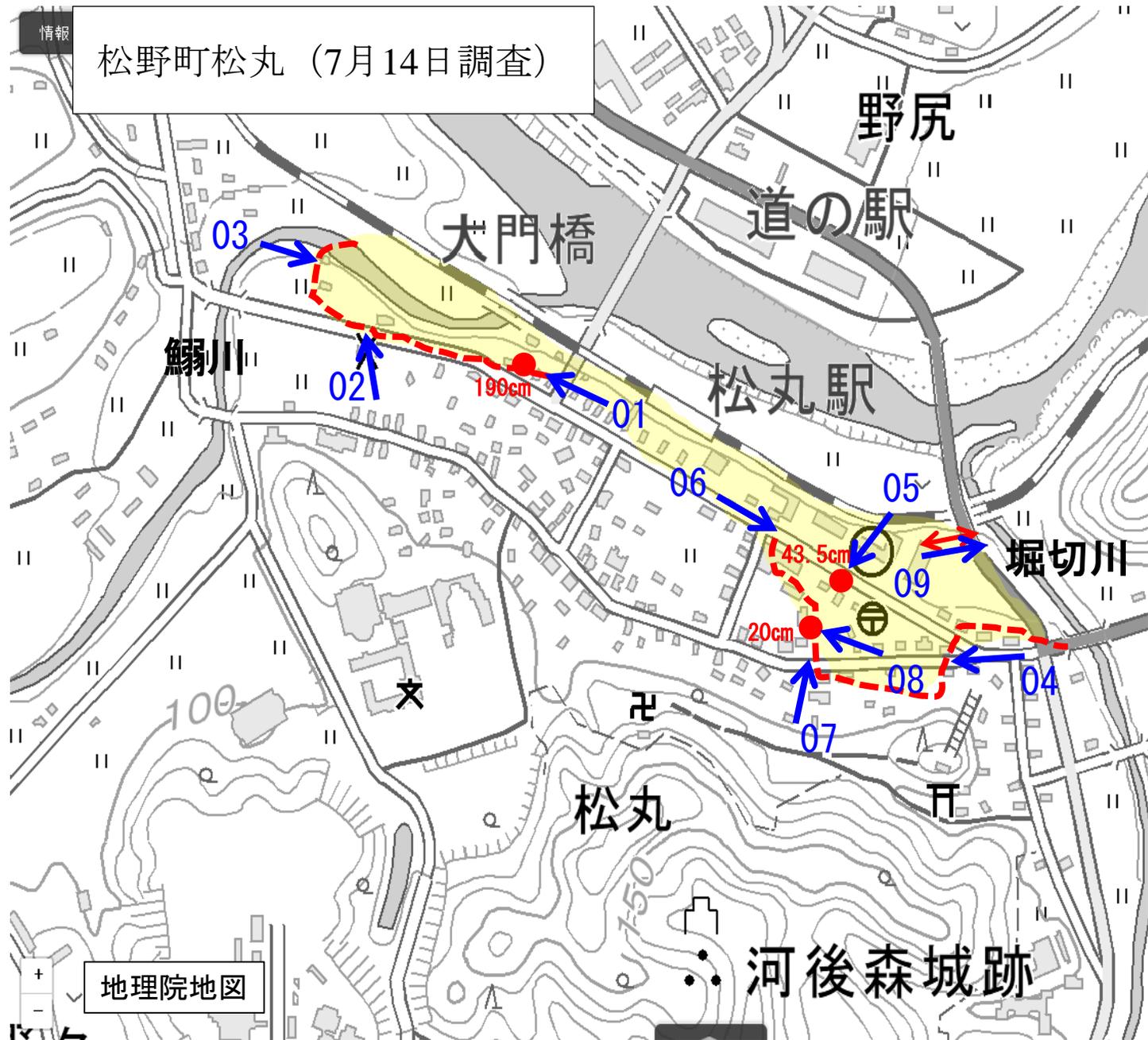
愛媛県北宇和郡松野町 広見川(延野々から吉野付近)

浸水深さ測定:2018年7月14日 藤森祥文、貝原 愛(学生)、越智晴香(学生)、  
矢野凌佑(学生)、渡邊政広(NPO法人愛媛県建設技術支援センター)、  
宮内大悟(愛媛県技術士会)、鷺津宏明(愛媛県技術士会)

調査箇所 愛媛県北宇和郡松野町 広見川(延野々から吉野付近)



# 松野町松丸 (7月14日調査)



赤破線：推定最大浸水範囲  
 赤矢印：推定流向  
 番号+青矢印：写真番号+カメラ向き  
 黄色部分：調査範囲

- ・予土線より南は広見川から直接の流入は無し
- ・広見川の水位上昇により、鰯川（松丸駅西側）と堀切川（松丸駅東側）に堰上げが発生し浸水
- ・鰯川下流の浸水範囲では7時頃に水位が上昇し始め、8時46分頃に最大浸水深となった（写真02）
- ・堀切川左岸の浸水は、国道318の下部にあるボックス（通常は能動として使用、小さな水路有り）を通して堀切川から堰上げによる（写真09）
- ・商店の床面程度浸水の浸水深（写真05）
- ・堀切川下流の範囲では8時57分頃に最大浸水深となった（写真06）
- ・山から流れ出した水により水路が溢れた（役場前）
- ・「予土線を越える水位となれば街全体が浸水する」ことを住民は経験より知っている
- ・避難場所として松野町役場（松野町コミュニティセンター）が挙げられているが、当時浸水深が大きなエリアだった
- ・住民は避難所の使い分けが必要との認識を持っている

写真01



写真02



写真03 (鰯川下流)



写真04



写真05



写真06

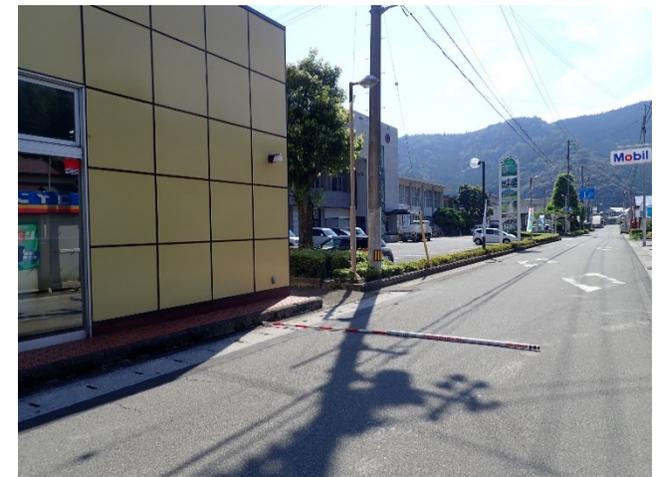


写真07 (松野町役場前の路地)



写真08 (駐車場北の民家)



写真09 (国道318号下のボックス)



松野町延野々 (7月14日調査)



赤破線：推定最大浸水範囲

赤矢印：推定流向

番号+青矢印：写真番号+カメラ向き

黄色部分：調査範囲

- ・浸水範囲は道路際田畑（周辺の田畑より一段高い）の線とほぼ一致
- ・大門橋左岸の交差点から道の駅（虹の森公園まつの）方向へ流れるのを確認
- ・道の駅は50cmの冠水（スタッフで復旧作業中）
- ・道の駅から道路を挟んだ向いの駐車場は中央部が島のようなになった（やや地盤が高い）
- ・道の駅から左岸下流側は写真01まで堤内への流入無し
- ・写真01辺りで堤内へ流入確認（砂を巻き上げ堤内へ）
- ・広見川と道路がすりつく辺りで河道へ戻る
- ・河道へ戻る辺りのフェンスでは水位が急激に下がっている様子わかる（写真02）
- ・堤内への流入は泥の痕跡より田んぼのブロック塀が水際（写真03）
- ・延野々上流の工場裏用水路より水があふれ出す（写真04）
- ・工場および工場北の道路は浸水なし、道路より一段下がった竹藪まで
- ・仲組では8時ごろに西からの流れ。その後北側（川の上流側）からの流れ
- ・延野々集会所の東の交差点は一部が高くなっていた

写真01 (堤内への流入)



写真02 (松野町水道資材倉庫裏)



写真03 (堤内流入の水際)



写真04 (工場裏用水路)



写真05 (広見川上流浸水水際)

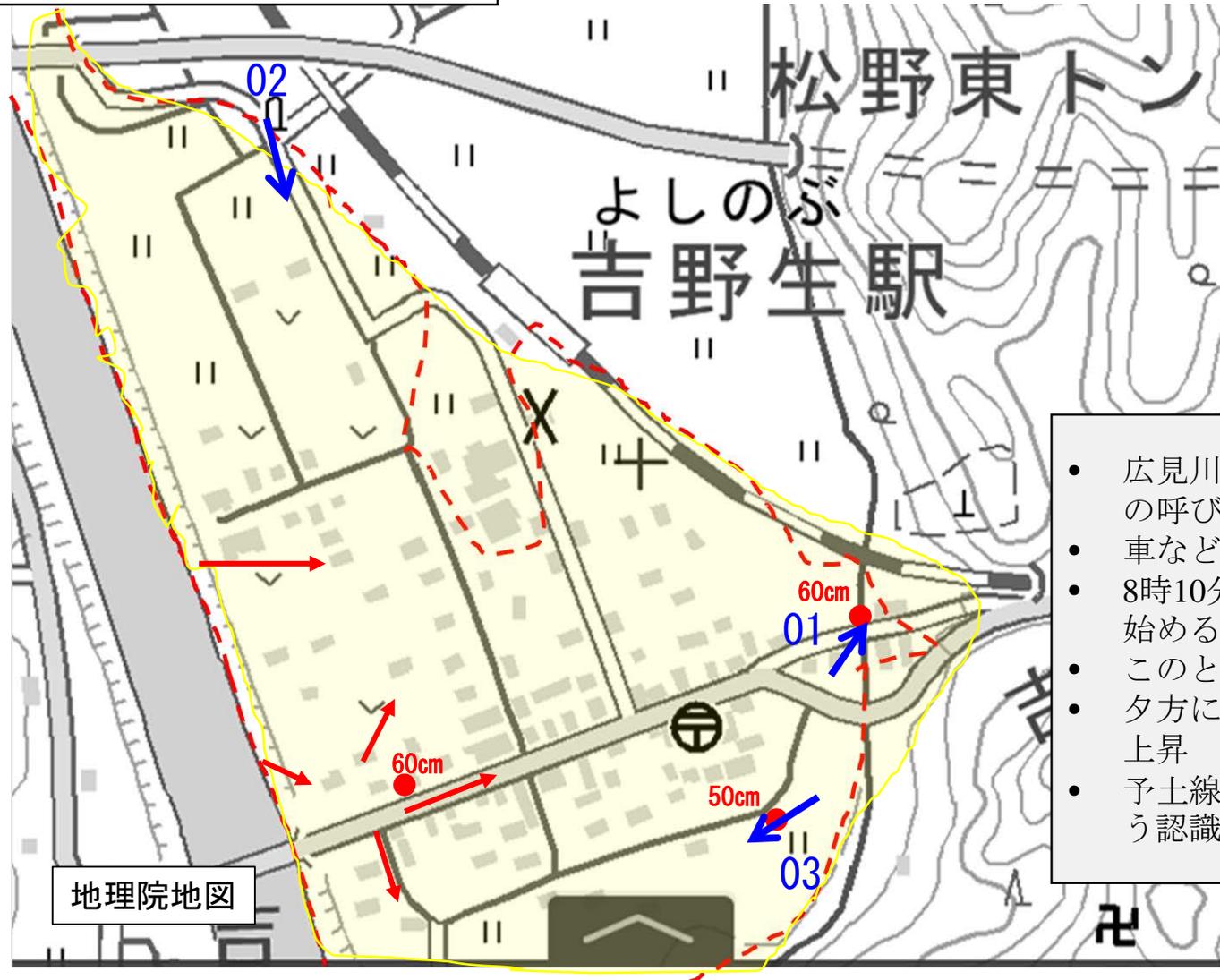


写真06 (果樹園)



吉野  
(7月14日調査)

赤破線：推定最大浸水範囲  
赤矢印：推定流向  
番号+青矢印：写真番号+カメラ向き  
黄色部分：調査範囲



- 広見川左岸，よしの橋下流 8時10分に堤防すれすれ 消防団の呼びかけで8時30分吉野東小学校へ避難
- 車などは東小学校までの坂道に避難
- 8時10分頃ふもとの斜面まで水位が上昇し，10時30分ごろ引き始める
- このときの流行は上流側から下流側
- 夕方には水位は堤防から2m程度下がった．翌日にはまた水位上昇
- 予土線を超える水位＝必ず避難しなければならない水位という認識

地理院地図

写真01 (吉野生トンネル下)



写真02 (国道381号手前)



写真03 (集会所)



松野町吉野南部（7月14日調査）



- 写真01では河川と逆方向に流木が流され堆積

写真01 (広見川左岸)



写真02 (広見川左岸)



写真03 (工場)

